

## 第9次福岡市基本計画の振り返りについて(概要)

福岡市では、平成 24 年 12 月に策定した「第9次福岡市基本計画」に基づき、「都市の成長」と「生活の質の向上」の好循環を創り出すことを都市経営の基本戦略として掲げ、まちづくりを進めてきました。

これまでの取組みの結果、人口や市税収入は増加し、「住みやすい」と答える市民の割合が 10 年連続で 95% を超えるなど、元気なまち、住みやすいまちとして内外から評価されていますが、一方で、少子高齢化の進展や、コロナで傷んだ経済の回復、市民ニーズの多様化など、福岡市政を取り巻く課題は多岐にわたります。

新たな基本計画を策定していくにあたり、第9次基本計画の 10 年間(H25~R4)の取組みを施策分野ごとに振り返ります。

ユニバーサルデザイン、人権、福祉 (1-1~1-3、1-6) ※( )内は計画上の施策番号(以下同じ)

- ユニバーサルデザインの普及啓発やベンチプロジェクトを推進するとともに、道路のバリアフリー化、ノンステップバスの導入などバリアフリーのまちづくりを推進。また、誰もがお互いを理解し、安心して笑顔で自分らしく遊ぶことができる「インクルーシブな子ども広場」の実証実験を行い、整備指針を策定。
- 人生 100 年時代の到来を見据えたプロジェクト「福岡 100」を開始し、高齢者の活躍や買い物等の生活支援、健康づくりなどを推進するとともに、「認知症フレンドリーシティプロジェクト」として、認知症コミュニケーション・ケア技法「ユマニチュード®」の普及、福岡オレンジパートナーズの設立などを実施。
- 障がい者差別解消条例を施行し、差別の解消や理解促進を図るとともに、区障がい者基幹相談支援センターの設置、障がい者グループホームの設置促進、障がい者工賃向上支援センターの設置など、障がいのある人が暮らしやすいまちづくりを推進。
- 性的マイノリティに関する支援方針を策定し、パートナーシップ宣誓制度や LGBTQ フレンドリー企業登録制度の導入など、市民や社会の理解を深めるための取組みを推進。

子ども、教育 (1-7、1-8)

- 子育て世代包括支援センターや不妊専門相談センターの設置、妊産婦や乳幼児に対する健康診査の充実、産後ケアや産後ヘルパー派遣など、出産前から出産後、子育て期まで、切れ目ない支援を実施。
- 約 15,000 人分の保育の受け皿を確保するとともに、家賃や奨学金返済の支援などにより必要な保育士を確保し、待機児童をほぼ解消。また、様々な就労形態への対応、障がい児や医療的ケア児の受け入れなど、多様な保育サービスを充実。

- 障がいの早期発見・早期支援のため、南部地域の相談・診断・療育機能を担う施設の整備を進めるとともに、児童発達支援センターの開設、放課後等デイサービスの充実など、障がい児への支援・療育体制を整備。
- 子ども家庭支援センターや産前・産後母子支援センターの設置、SNS を活用した相談事業の開始など、児童虐待の未然防止に取り組むとともに、子ども食堂への支援、習い事費用の助成など、貧困の状況にある子どもへの支援を実施。
- 小中学校全学年での 35 人以下学級、ふれあい学び舎事業、ICT 環境の整備などにより、すべての児童生徒の学力向上を図るとともに、ネイティブスピーカーやゲストティーチャーを配置し、生きた英語を学ぶ機会を充実。また、学校生活支援員の配置、医療的ケア支援体制の整備、特別支援学級の整備など、一人ひとりのニーズに応える教育を推進。
- スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの大幅拡充、「いじめゼロサミット」の開催、SNS を活用した教育相談体制の構築などにより、いじめ・不登校等の未然防止・早期対応を推進。
- 小・中学校規模の適正化、普通教室及び特別教室への空調整備、公立夜間中学校の開校、福岡市科学館の整備など、教育環境の整備を推進。

#### 文化芸術、スポーツ（1-4、1-5、5-5、7-2）

- 福岡市美術館のリニューアル、福岡アジア美術館の魅力向上、拠点文化施設の整備など、文化振興の拠点整備を推進。
- 様々なアートイベントを行う「FaN Week」を開催し、市民が身近にアートに触れる機会の充実を図るとともに、アーティストの支援を行う「Artist Cafe Fukuoka」を開設するなど、彩りにあふれたアートのまちをめざす「Fukuoka Art Next」を推進。
- 福岡マラソンの開催、福岡市総合体育館の整備など、誰もがスポーツ・レクリエーション活動に親しむことができる環境づくりを推進するとともに、ラグビーワールドカップや世界フィギュアスケート国別対抗戦、世界水泳選手権、プロスポーツなど、市民が身近でトップレベルの競技を観戦できる機会を通じ、スポーツを振興。

#### 地域コミュニティ、共働（2-1～2-5）

- 共創による地域コミュニティ活性化条例を制定し、地域コミュニティの大切さについて市民と共有するとともに、自治協議会共創補助金や地域活動に関するアドバイザーの派遣、区役所の体制強化等により、地域コミュニティの主体的な取組みを支援。
- 公民館の 150 坪化及び Wi-Fi 環境整備、なみきスクエア、ともてらす早良の整備、南市民センターのリニューアルなど、地域活動の拠点整備を推進。
- 公民連携ワンストップ窓口「mirai@」を設置し、民間事業者の先端技術等を活用しながら、社会課題の解決や市民生活の質の向上を促進。

### 防災、都市基盤（3-1～3-3、3-6）

- 災害対策本部室の移転整備、災害時の電源確保、防災アプリ「ツナガル+」の開発・運用、九州市長会防災部会の設立などにより防災・危機管理体制を充実・強化するとともに、地域における避難所運営訓練や個別避難計画の作成支援などにより、地域防災力を向上。
- 中央区における消防署所の再編整備、福岡都市圏における消防通信指令業務の共同運用、救急隊の増隊などにより、消防・救急体制を充実。
- 歩行空間の整備や安全対策など、身近な生活道路の改善を推進するとともに、踏切による交通渋滞や事故の解消等を図るため、西鉄天神大牟田線連続立体交差事業を実施。
- 雨水整備Dプランや雨水整備レインボープラン天神により浸水対策を推進するとともに、都市基盤河川改修事業などにより河川の治水安全度を向上。
- 五ヶ山ダムの建設、計画的な配水管の更新、漏水防止対策、下水処理水の有効利用などにより、安全で良質な水道水の安定供給と節水型都市づくりを推進。
- 市営住宅の耐震化やバリアフリー化、高齢者や子育て世帯の住替え助成などにより、良質な住宅・住環境づくりを推進。

### 感染症対策、防犯、モラル・マナー（3-4、3-5、3-7）

- 新型コロナウイルス感染症の発生を受け、検査体制や医療提供体制の充実、ワクチン接種などの対策を推進するとともに、事業者の感染症対策に要する経費の支援、容積率緩和制度の活用などにより、感染症に対応したまちづくりを推進。
- 街頭防犯カメラ設置の助成、客引き対策、飲酒運転撲滅対策、暴力団排除対策などにより地域の防犯力向上を図るとともに、放置自転車対策や自転車通行空間の整備、路上喫煙対策、動物愛護の強化などにより、安全・安心なまちづくりを推進。

### 環境、自然、交通（4-1～4-6）

- 2040年度の温室効果ガス排出量実質ゼロに向けて、住宅やオフィス、市有施設等における再生可能エネルギーの導入や省エネ化などを促進するとともに、ごみの減量及び資源化を進め、環境負荷が少なく持続可能な社会づくりを推進。
- 市民や地域、企業等との共働により「一人一花運動」や「都心の森1万本プロジェクト」に取り組み、彩りや潤いにあふれ、緑豊かなまちづくりを推進するとともに、水上公園や動植物園、高宮南緑地などにおいて、民間活力を導入した賑わい・魅力づくりを推進。
- 農山漁村地域におけるビジネス創出や定住化の促進、農林水産業の振興や海辺を活かした観光振興などにより、市街化調整区域の活性化を推進。

- 地下鉄七隈線の延伸、都心循環 BRT の導入、都心部におけるフリンジパーキングの確保、オンデマンド交通を活用した社会実験などにより、公共交通を主軸とした総合交通体系の構築を推進。

#### 観光・MICE (5-1~5-6)

- クルーズ誘致や福岡空港の機能強化、博多旧市街プロジェクト、屋台、祭りなどの観光資源を活かしたプロモーション、無料公衆無線 LAN や多言語・キャッシュレス対応等の受入環境整備などにより、入込観光客数は平成 25 年度から令和元年度まで過去最高を更新。
- 新型コロナウイルス感染症の発生・拡大により、令和2年度から令和3年度にかけてインバウンドや国内観光需要は著しく減少したが、令和4年度以降、水際対策が順次緩和され、観光需要が回復し、クルーズ船の受入も再開。
- MICE 誘致の専門組織「Meeting Place Fukuoka」の設置、マリンメッセ B 館の整備など、MICE 拠点の形成を推進し、G20 財務大臣・中央銀行総裁会議をはじめ、令和元年度までは多数の国際コンベンションが開催。コロナ発生以降は、オンラインを活用した誘致活動を行うとともに、安全対策やハイブリッド開催への支援を実施。

#### 産業振興、地域経済、スタートアップ (6-1~6-5、7-1~7-5)

- 九州大学の研究シーズを活用した研究開発次世代拠点の形成に取り組むとともに、エンジニアカフェを開設し、エンジニアフレンドリーシティ福岡を推進。また、下水バイオガスを活用した世界初の水素ステーションを開設するなど、水素リーダー都市プロジェクトを推進。
- 産学官民が一体となり設立された福岡地域戦略推進協議会 (FDC) の成長戦略を支援。国家戦略特区の獲得、部会・会員ネットワークを活用したプロジェクトの検討・事業化などにより、福岡市及び福岡都市圏の成長に資する事業を推進。
- 立地交付金や地方拠点強化税制の活用、国内外における PR 活動などにより、成長分野・本社機能の企業誘致を推進し、10 年連続で 50 社以上の進出を達成するとともに、産学官による「TEAM FUKUOKA」の一員として、国際金融機能の誘致を推進。
- キャッシュレスの普及促進や企業間取引のデジタル化等により中小企業の生産性向上を支援するとともに、コロナ下における事業者支援として、家賃支援や休業要請対象外施設への支援、商工金融資金制度の充実、プレミアム付商品券の発行支援などを実施。
- 商店街のイベント開催支援、アーケードや防犯カメラの設置支援などにより、にぎわいと魅力ある商店街づくりを推進するとともに、伝統産業の販路拡大や後継者育成等を支援。
- 農林水産物のブランド化を推進するとともに、就農相談や女性農業者の育成、農福連携などにより、農林水産業の多様な担い手づくりを支援。また、新青果市場の整備や鮮魚市場の機能更新などを実施。

- スタートアップ都市宣言以降、国家戦略特区の指定を推進力として、スタートアップカフェの開設や「Fukuoka Growth Next」の開設、スタートアップビザ制度の創設など、スタートアップの裾野の拡大に取り組み、800件以上の起業を支援するとともに、海外スタートアップ拠点との連携などにより、グローバルに活躍できる創業の環境づくりを推進。

#### 都心部、拠点、ゲートウェイ（8-1～8-4）

- 規制緩和等により、耐震性が高く先進的なビルへの建替えを誘導する「天神ビッグバン」や「博多コネクティッド」を推進するとともに、ウォーターフロント地区ではマリンメッセ福岡 B 館の整備を行うなど地区の特性を活かした魅力あるまちづくりを推進。
- アイランドシティでは、道路、緑地等の都市基盤整備が進み、良好な住宅市街地の形成や健康・医療・福祉関連施設や商業・宿泊施設など多様な都市機能が集積するとともに、都市高速道路の開通等により利便性が向上。九州大学学術研究都市では、研究開発拠点の形成、道路・河川などのインフラ整備等を推進。
- 福岡空港では、平行誘導路の二重化や滑走路増設等による機能強化、国内線ターミナルビルの再整備や都市高速道路の延伸等による利便性向上を推進。博多港では、アイランドシティで岸壁やコンテナヤード、福岡高速6号線（アイランドシティ線）の整備等を進めるとともに、クルーズ船の大型化や寄港回数の増加に対応するため、中央ふ頭でクルーズセンターの整備や西側岸壁の延伸などを実施。

#### 国際（8-5～8-8）

- 在住外国人数は年々増加しており、外国人総合相談支援センターの設置、多言語での情報発信、地域と外国人住民との交流、日本語教育の推進などにより、アジアをはじめ世界の人にも暮らしやすいまちづくりを推進。
- アジア太平洋都市サミットの開催、国連ハビタット福岡本部の支援などにより、福岡市の国際的なプレゼンスを高めるとともに、ヤンゴン市への技術職員長期派遣、フィジーやインドなどにおける技術協力等の国際貢献を実施。また、福岡アジア文化賞や、アジア太平洋子ども会議・イン福岡などを通して、市民レベルでの国際交流を推進。